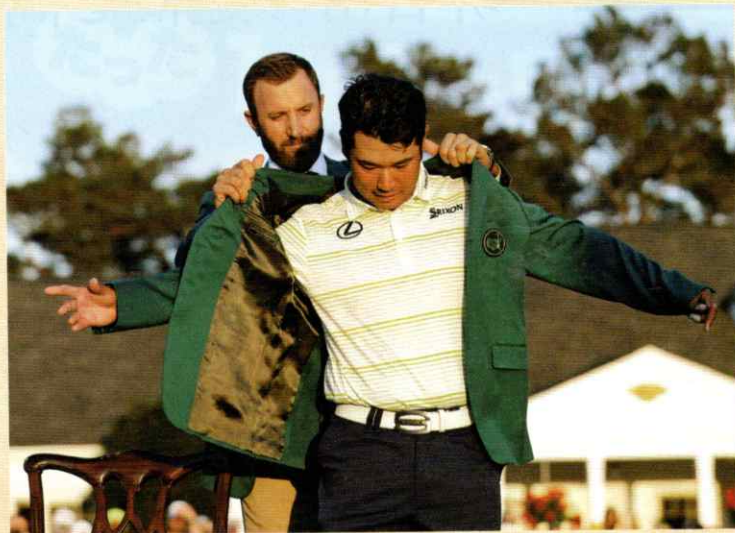


中野香織  
「ファッション歳時記」

117

勝者のブレザー



日本男子として初めてメジャー制覇を果たし、前回優勝のジョンソンさんからグリーンジャケットを着せてもらう松山さん(手前)、写真ロイター/アフロ

男子ゴルフのマスターズ・トーナメントでの松山英樹さんの優勝は、爽快なニュースでした。キャディー早藤将太さんのホールアウト後の一礼といい、解説の中嶋常幸さん、ゲスト解説の宮里優作さん、実況アナウンサーの小笠原巨さんの静かな男泣きといい、日本の男性の強さと美しさが世界に発信された、記念すべき瞬間でもありました。松山さんが前回優勝者のダスティン・ジョンソンさんからグリーンジャケットを着せてもらう表彰式の光景は、ひときわ鮮烈でした。街中で緑のジャケットを目にしたら選挙が近いのかと思ってしまうですが、ゴルフ場で

のそれは勝者のオーラを際立たせていました。報道によれば、松山さんは、当日着用する黄色いポロシャツとネイビーのパンツを、グリーンジャケットとの相性を考えて選んだそうです。「あのジャケットをまよえば、このコーディネートが完成する」、勝つためのこんなイメージトレーニングもありなのですね。さて、このグリーンジャケット、厳密に分類するならばブレザー(Breaser)に含まれます。ジャケットは丈が短く上着の総称ですが、そのなかの二種と

してブレザーがある、という位置付けです。テラーの間では「スポーツコート」と呼ばれる、金属ボタンを特徴とする上着です。起源に関しては、二説あります。ケンブリッジ大学セント・ジョンズカレッジのポートクラブ「レディ・マーガレット・ポートクラブ」(1825年創設)のユニフォームの上着の色、「ブレイズ」(燃え上がる炎)のような深紅に由来するという説。もう一説は、戦艦ブレイザー号の乗組員が着用していた軍服(1837年ごろ)に由来するという説。つまり、19世紀前半の学生のユニフォームまたは軍服が起源というわけ

です。アメリカのエリートは好んでブレザーを着用しますが、それは有名出身大やクラブを示すことができるからでもあります。「エリートクラブ」の象徴ですね。スポーツ界においても、マスターズでの勝者に贈られる緑のブレザーや、コングレッショナル・カップのレガッタの勝者に贈られる深紅のブレザーによって、ブレザーは「優勝者クラブ」の象徴という二面を帯びるようになっていきます。とはいえ、マスターズの優勝者がグリーンジャケットを自由に着ていいのは二年間のみ。その後は、クラブに返却され、クラブ内に保管されるそうです。そういえば「エリートクラブ」のブレザーも高齢者がクラブ外で着ていると鼻につくことがあります。勝者の誇りは期間限定・場所限定で慎ましく示されてこそ好感が持たれるということ、歴代の勝者が学んできた知恵なのかもしれません。



なかの かおり  
1962年生まれ、富山市出身。服飾史家として研究、講演、執筆をおこなうほか、昭和女子大学客員教授、企業の顧問を務める。株式会社Kaori Nakano代表取締役。東京大学大学院修了。英国ケンブリッジ大学客員研究員、明治大学特任教授などを務めた。著書に、「イノベーター」で読むアパレル全史(日本実業出版社)、「ロイヤルスタイル 英国王室ファッション史」(吉川弘文館)ほか多数。